



## 九州が牽引する林業の成長産業化 ～平成30年度重点取組事項の記者発表を行う～



記者発表を行う局幹部

4月18日、九州森林管理局では、「九州が牽引する林業の成長産業化」と題し、平成30年度の重点取組事項について記者発表を行いました。

記者発表では、冒頭、原田隆行局長より、林野庁九州森林管理局として社会的・経済的ニーズや九州・沖縄の森林の管理経営における課題に応じて、限られた予算と人員の下での業務を絞って効率的・効果的に業務運営を行い、国民の森林として貢献できるよう取り組む旨の挨拶があり、その後、井口真輝計画保全部長、松葉瀬裕之森林整備部長から各事項の具体的な内容について説明を行いました。

記者発表では、冒頭、原田隆行局長より、林野庁九州森林管理局として社会的・経済的ニーズや九州・沖縄の森林の管理経営における課題に応じて、限られた予算と人員の下での業務を絞って効率的・効果的に業務運営を行い、国民の森林として貢献できるよう取り組む旨の挨拶があり、その後、井口真輝計画保全部長、松葉瀬裕之森林整備部長から各事項の具体的な内容について説明を行いました。

### ① 確実な再造林の実施に向けた造林コストの低減

・ 持続的な森林経営が期待される人工林にあっては、公益的機能の発揮及び資源の確実な造成を図る観点から、伐採後の再造林を確実に行う必要があり、造林コストの低減等が課題。

・ 民有林への普及を念頭に、林業の低コスト等に関する先駆的手法を積極的に導入し、国有林のみならず民有林においても、低コストで高効率な施業が普及・定着するよう取り組むことが必要。

### ② 生産性の向上による担い手の育成

・ 地域林業を支える担い手の育成、国産材の安定供給に向けて、生産性の向上が課題。  
・ 日報管理を通じた工程管理により、作業システムの最適化や

### ③ 深刻化するシカ被害への対応

・ シカの増加、生息域の拡大により森林の被害が深刻化。「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」（2013年、環境省・農林水産省）ではシカの生息数を10年後までに半減させることを目標としているが、捕獲の担い手である狩猟者は著しく減少・高齢化の状況。

・ 環境省や県・市町村等の関係機関との連携を図りながら戦略的な対応を進めるとともに、くくり罠の無償貸与等による地域と一体となった森林被害対策に取り組むことが必要。

### ④ 優れた自然環境を有する森林の保全

・ 特に優れた自然環境を有する地域については保護林に設定し、森林生態系の保全、希少な野生生物の保護を図ることとし、モニタリング調査等を通じた順応的管理に取り組むことが必要。  
・ 世界自然遺産への登録が見込まれる「奄美大島、徳之島、沖縄本島北部及び西表島」については、地元関係者と連携して、世界自然遺産登録後の森林生態

作業改善を図り、高い生産性の実現を目指す。

系保護地域の適切な保全対策等を実施。

### ⑤ 森林総合監理士の活動等を通じた市町村林務行政の支援

・森林所有者自ら経営管理できない森林のうち、①経済ベースにのる森林については、市町村を介して意欲と能力のある林業経営者に集積・集約化するとともに、②経済ベースにのらない森林については、市町村が森林環境譲与税（仮称）を活用し公的に管理する、新たな森林管理システムが平成31年度から施行見込み。

・新たな森林管理システムが効率的に機能するよう、国有林職員の森林総合監理士への登録を推進し、市町村林務行政に対する技術的支援を積極的に実施。

### ⑥ 森林景観を活かした観光資源の創出

・優れた自然環境を有し、森林浴や自然観察等に適した国有林をレクリエーションの森として設定し、国民に保健休養の場として提供。

・特に魅力的な自然環境を有するなど、観光資源としての活用が期待される箇所として選定されたモデル箇所において、インバウンド需要の呼び込みも

目指して、環境整備や情報発信を実施。

### ⑦ 被災地の森林・林業の再生に向けた取組への貢献

・平成28年熊本大地震及び平成29年九州北部豪雨では、山腹崩壊等の林地荒廃、法面・路肩の崩壊等の林道施設の被害などが多数発生。

・復旧・復興に向けて、国有林野における治山事業だけでなく、熊本県及び福岡県からの要請による民有林治山事業に積極的に取り組むなど、県・市町村と連携して、被災地の森林・林業の再生に向けた取り組みを推進。  
※平成30年度重点取組事項は、九州森林管理局HPのキーワード「九州森林管理局の重点取組事項」からご覧になれます。  
(担当Ⅱ企画調整課)



説明を受ける報道各社

## 治山・林道コンクール表彰式を行う

### ◆優良工事施工業者・技術者・監督員を表彰◆

平成29年度治山・林道工事コンクールの表彰式を4月10日、局長室において行いました。

このコンクールは事業効果の発現が顕著なものについて、実施要領に基づく取り組みテーマ（コスト縮減・技術提案・環境配慮）に合致した工事の中から、優良工事が選定され、工事内容が良好で他の模範に当たると判断を行いました。

受賞者は次のとおりです。

道川第2支流）

《鹿児島署発注》

坂本建設株式会社

代表取締役 久木田純隆

○黒味1治山工事（関連災）

《屋久島署発注》

小牧建設株式会社

代表取締役 小牧隆

【林道工事の部】

○立花林道第1支線新設工事

《大分署発注》

株式会社山崎産業

代表取締役社長 山崎司

○陰谷林道新設工事

《西都児湯署発注》

株式会社桑原建設

代表取締役 桑原常雄

○荒西林道牧支線改良工事

《大隅署発注》

有限会社栄倉組

代表取締役 栄倉忍

【技術者等の部】

○岩越治山工事

主任技術者 江嶋英美（山口建設株式会社）

監督職員 浅尾純治 佐賀署

（現屋久島署）

○湯川内原99林道新設工事

現場代理人 福山忠洋（合資会社小場組）

主任技術者 大町一文（合資会社小場組）

監督職員 宮島貴文（長崎署）

（担当Ⅱ森林整備課）

○桜島地区治山工事（西

郎

○桜島地区治山工事（西

郎

○秋切合治山工事

《宮崎南部署発注》

永野建設株式会社

代表取締役 永野征四

○長崎署発注》

合資会社小場組

代表社員 小場政昭

九州森林管理局局長賞

【治山工事の部】

○岩越治山工事

《鹿児島署発注》

坂本建設株式会社

代表取締役 久木田純隆

○黒味1治山工事（関連災）

《屋久島署発注》

小牧建設株式会社

代表取締役 小牧隆

【林道工事の部】

○立花林道第1支線新設工事

《大分署発注》

株式会社山崎産業

代表取締役社長 山崎司

○陰谷林道新設工事

《西都児湯署発注》

株式会社桑原建設

代表取締役 桑原常雄

○荒西林道牧支線改良工事

《大隅署発注》

有限会社栄倉組

代表取締役 栄倉忍

【技術者等の部】

○岩越治山工事

主任技術者 江嶋英美（山口建設株式会社）

監督職員 浅尾純治 佐賀署

（現屋久島署）

○湯川内原99林道新設工事

現場代理人 福山忠洋（合資会社小場組）

主任技術者 大町一文（合資会社小場組）

監督職員 宮島貴文（長崎署）

（担当Ⅱ森林整備課）

# 新任挨拶 どうぞよろしく

平成30年4月1日付の異動により、新しいポストに就かれた、次長（業務管理官）・計画保全部長・5人の課長・4人の森林管理署長をご紹介します。

## 次長（業務管理官）



林 視  
はやし のぞむ

年齢 57歳  
出身地 大阪府  
前職 計画保全部長  
抱負 前職に引き続き、先輩方の労苦により育まれてきた森林を上手く活用しつつ次の世代に良い山として引き継いでいくこと、国有林が地域の振興や安全・安心な暮らしに役立つことを心がけ、今後益々重要となってくる国有林との連携や支援を推進し、「森林管理署があっても良かった」と地元の方に言ってもらえるよう取り組んで参りたいと思います。よろしくお願ひします。

## 計画保全部長



井口 真輝  
いぐち まさき

年齢 53歳  
出身地 愛知県  
前職 林野庁木材製品技術室  
抱負 九州森林管理局は、森林整備や木材生産などの事業量が多い一方、世界自然遺産となるような自然豊かな森林を多く抱えており、やりがいのある職場だと感じています▼国有林は国民共通の財産であるという意識を持ちながら仕事をして、より良い状態で次の世代に引き継いでいけるようにしたいと思っています。皆さんよろしくお願ひします。

## 総務課長



山部 義臣  
やまべ よしおみ

年齢 57歳  
出身地 熊本県  
前職 森林整備課長  
抱負 永い国有林生活で総務関係は初めての部署で困惑している状況ですが、良き課内のスタッフの力を借りながら、職務を全うしたいと考えております▼また、3年連続で飲酒運転等の不祥事が発生すると共に職員災害も昨年度は一昨年度より倍増するなど、総務の担当責任者として危惧しているところであります▼本年度は、職員の皆様と共に不祥事の撲滅と職員災害の削減を成し遂げたいと考えておりますので、職員の皆様のご協力をお願いいたします。

## 経理課長

年齢 56歳  
出身地 熊本県



山本 文雄  
やまもと ふみお

前職 総務企画部専門官（債権管理担当）  
抱負 これまで3年間、経理課内で契約や債権の業務に携わっておりましたが、今般、経理業務全般に携わることとなりました▼経理事務は、厳格かつ正確さを求められるものではありませんが、快適で効率的な事務処理を旨とし、業務の円滑な実施を下支えしていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 治山課長



赤星 良治  
あかほし りょうじ

年齢 55歳  
出身地 熊本県  
前職 治山技術専門官

## 森林整備課長



鎌田 敏雄  
かまた としお

抱負 平成28年4月に発生した熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨や台風の襲来などにより、各地で山腹崩壊や溪流荒廃など甚大な被害をもたらしています▼地域の安全・安心を確保するため、管轄署と連携し早期復旧を目指します▼特に平成28年熊本地震、平成29年7月九州北部豪雨においては、熊本県及び福岡県の要請を踏まえ、県に代わり直轄施行による国有林治山事業について、県・市町村など関係機関と連携し復旧に向け取り組んで参りますので、よろしくお願ひします。

年齢 58歳  
出身地 鹿児島県  
前職 森林整備部企画官  
抱負 利用期を迎えた森林資源を利用し次世代へ引き継ぐには、主伐後の再造林を確実に、森林資源の循環を図ることが必要です▼そのためには再造

林のコスト削減が課題となっており、コンテナ苗を活用した一貫作業システムの実施、優良品種導入や低密度植栽等の実施による、トータルコストの低減と事業を円滑に遂行するための林道整備などを進め、各署等と連携して安全で効率的な業務運営に取り組んで参りますのでよろしくお願い致します。

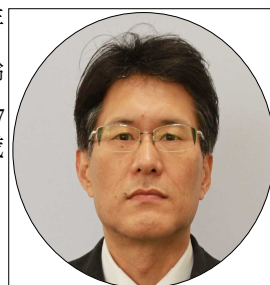
## 技術普及課長



桑原 英隆  
くわはら ひでたか

年齢 53歳  
出身地 熊本県  
前職 宮崎北部署次長  
抱負 各署と綿密な連携を図りながら、技術開発・人材育成やフォレスト活動の実施など、民国連携を推進するとともに、国民参加の森づくりや森林環境教育により、森林・林業への国民の理解が得られるよう取り組んで参りますので、よろしくお願致します。

## 福岡森林管理署長



崎野 健輔  
さきの けんすけ

年齢 57歳  
出身地 鹿児島県  
前職 林野庁国有林野生態系保全室長  
抱負 3年ぶりの九州局です▼福岡署は、これまで勤務した署と、資源量や国有林野の分布関係する市町村の数など、タイプの異なる署であることに、大変興味を持っています。また、国有林野の適正適切な管理経営地域における署及び職員が存在感の適切な発揮、能力を十分に発揮できる職場環境づくりなど職員幸せを目標として、また、皆様や山の声を良く聞いて職務に取り組んで参りますので、よろしくお願致します。

## 大分森林管理署長

年齢 58歳  
出身地 高知県  
前職 中部局飛騨署長



坂本 和隆  
さかもと かずたか

抱負 初めての九州局勤務となります▼健康で災害のない明るい職場作りに努め、公益重視の管理経営の一層の推進のため、地域と連携したシカ被害対策の推進や治山事業の推進をはじめ、林業の成長産業化の実現に向け、国産材の安定供給、事業の低コスト化等々の取り組みを、民有林との一層の連携強化を図りながら、各業務に職員一体となって頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願致します。

## 鹿児島森林管理署長



山口 輝文  
やまぐち てるふみ

年齢 51歳  
出身地 鹿児島県

前職 大隅署長  
抱負 大隅署に続いての鹿児島勤務となりますが、錦江湾を渡ると国有林を取り巻く環境が全く異なることに改めて驚いています▼公益的機能の発揮や林業の成長産業化への貢献、世界自然遺産登録への対応などやるべきことが沢山ありますが、安全で明るい職場作りに努めながら、職員の皆様とともに取り組んで参りますので、よろしくお願致します。

## 大隅森林管理署長



井上 智晴  
いのうえ ともはる

年齢 54歳  
出身地 熊本県  
前職 林野庁研究指導課課長補佐(調整)  
抱負 森林管理署勤務は四国局の安芸森林管理署以来で20年ぶりとなり若干不安を感じていますが、これまでの経験を基に取り組んで参ります▼管内は、林業成長産業化地域創出モデル

事業に選定されている地域です▼これまでの取組を一層加速させ、木材産業の成長産業化に向け、少しでも貢献できるように取組を進めて参りますので、よろしくお願致します。  
(担当：総務課)

## 発注者綱紀保持講習会

4月20日、局大会議室において、発注者綱紀保持講習会を開き、多くの職員が参加しました。当日は、公正取引委員会事務局、総局九州事務所から講師を招き、独占禁止法と入札談合等関与行為防止法について講習が行われました。講話は、まず、独占禁止法と



熱心に講習を受ける職員

は「公正且つ自由な競争を促進し、以て、一般消費者の利益を確保するとともに、国民経済の民主的で健全な発達を促進する」ことが目的で事業者による入札談合やカルテルなどの行為を禁止している」と説明があり、談合の情報が直接又は間接的にあれば通報してほしいとの話がありました。

次に、官製談合防止法は、入札談合等に発注機関の職員が関与する行為で、①談合の明示的な指示、②受注者に関する意向の表明、③発注に係る秘密情報の漏えい、④特定の談合の補助の4つの類型が定められ、これまでに発生した事例を交えて説明がありました。

最後に官製談合の防止に向けて、組織としては、法令遵守意識の向上に向けたコンプライアンスマニュアルを整備し明確かつ繰り返し発信することが必要であり、個人としては、監視者と加害者の2つの立場を自覚し業務を行うことが重要で「職員が守れなければ組織の対策は無意味」であり、研修等を通して知識を身につけ、疑問があれば公正取引委員会に相談してほしいとの話で締めくくりました。

(担当 川契約適正化専門官)

## 熊本林業土木協会から緑の募金

緑の募金運動は、国土緑化運動の中核的な推進手段として国民参加の森林づくりを推進するために一層の進展が期待されるとともに、「森づくりと木づかい」を通じて東日本大震災や熊本地震の復興を支援していくことが求められています。このため、「緑の募金全国一斉強調月間」として、「みどりの月間

(4月15日～5月14日)を重点的に募金活動が展開されています。この「緑の募金全国一斉強調月間」に先駆け、4月11日九州森林管理局局長室において、緑の募金贈呈式が行われ、(社)熊本林業土木協会会長山本求道

氏から原田隆行局長へ募金が手渡されました。



来局された協会員と局幹部

(社)熊本林業土木協会からは毎年募金の贈呈が行われており、局内の募金とあわせて国土緑化推進機構及び熊本市地域みどり推進協議会に送られ、全国の森林整備や緑化推進事業に活用されています。

(担当 川技術普及課)

## グリーンサポートスタッフ出発式

【大分森林管理署、大分西部森林管理署】4月19日、大分県九重町の長者原において、平成30年度前期の森林保護員の辞令を交付し、保全活動の出発式を開催しました。大分森林管理署から6名、大分西部森林管理署から4名が森林保護員に任命され、大船山、久住山など標高1700メートルを超える「くじゅう山地域」を対象として保全活動がスタートすることになりました。

出発式では、両森林管理署を代表して、大分西部森林管理署長が「『山の日』が制定されて3年目。多くの方に森林・林業



出発したグリーンサポートスタッフ

や自然環境の保全へ理解を深めていただく上で、パトロールは重要な取組。一方で、久住山では3月に遭難事案も発生。山に親しみながらもあなどることなく、今季も安全にパトロールを実施していただきたい」旨の挨拶を述べました。

この日、任命を受けた森林保護員の皆さんは、早速出発式会場周辺でチラシを配布し登山マナーアップの協力を呼びかけました。その他、保全活動の内容については、「入り込み者の状況把握」、「登山道の危険箇所」の把握と入り込み者への注意喚起」及び「登山道沿いに立ち入り規制のロープ柵の設置」などを行うこととしています。

これから、多くの登山者に「くじゅう山の大自然」を満喫していただくためにも、この保

全活動を充実させるとともに、登山者一人一人が満足していただけるように取り組みます。

## 愛林駅伝

【熊本森林管理署】2月24日、熊本県山都町において、青少年に自然愛護の心を育て、緑豊かなふるさとづくりへの意識の高揚をはかることを目的に本年度も愛林駅伝競走大会が開催されました。

当駅伝は昭和31年に始まり、今回で63回を数えます。山都町をはじめ近隣の4中学校から11チームが参加し、矢部地区中心部を巡回する5区間14.3キロメートルで競争が繰り広げられました。当日は晴天の下、沿道からたくさんの方々の声援を受け白熱した大会となり、みごと「矢部中学校」が優勝しました。



スタートラインに立つ各選手

## シカ被害対策協定の調印式

【北薩森林管理署】平成30年3月30日にさつま町役場において、北薩森林管理署、さつま町、宮之城猟友会、鶴田猟友会、薩摩地区猟友会の関係者及び報道関係者の16名が出席し、さつま町の国有林及び周辺のシカ被害対策推進のためのシカ被害対策協定の調印式を実施しました。



調印後の記念写真

冒頭、協定の提案者である前田三文北薩森林管理署長から今回の協定締結の意義について挨拶を行い調印式に移りました。調印式後、日高政勝さつま町長は、「これから5者で協力体制を構築しシカ被害対策に取り組み、さつま町の農林業被害や

森林生態系被害等の防止に努めたい」と挨拶、また、さつま町内の3猟友会を代表して山崎文久宮之城猟友会長は、「3猟友会でさつま町内の民有林における捕獲を進めており、さらに今回の協定締結により国有林と周辺のシカ等の捕獲対策に取り組み、協定の目的を達成していきたい」と挨拶し、5者連携したシカ被害対策がスタートしました。

## シカ捕獲勉強会を開く

【屋久島森林管理署】当署では屋久島森林生態系保全センターと連携しながらヤクシカを職員実行で捕獲しているところであり、平成29年度は185頭を捕獲するとともに、委託事業や協定捕獲等を合計すると449頭を捕獲しています。

このようなか、4月13日に当署会議室において、4月異動の転入者及び免許更新の必要な職員8名に対して岩本清文次長を講師として、有害鳥獣捕獲従事者研修を開催しました。午前中の座学研修に続いて午後からは鍋山国有林108林班において、職員20名が参加して実技研修会を開催しました。

実技研修会では、川畑充郎署長の挨拶の後、山邊隆広総括森林整備官が講師となって屋久島におけるヤクシカ被害対策の取組状況、本年度の捕獲計画等の説明やくくり罠の実技指導を行いました。



くくり罠の実技の様子

くくり罠の実技では初めて設置する者を中心に、設置のコツや安全な取扱い方法、電気止め刺し器の使用方法などの指導を受けました。当署及び保全センターでは、ヤクシカによる屋久島の貴重な森林生態系や農林業への被害を抑えるために、屋久島町、地元猟友会などの関係機関と連携しながら、本年度も職員実行と併せて委託事業や協定に基づくヤクシカ捕獲に取り組み考えです。

## 有害鳥獣捕獲勉強会

【宮崎北部森林管理署】当署管内の市町村においては、鳥獣による農林業に係る被害が深刻な状況であることから、地域課題への対応強化に向け、当署職員への技術向上を目的に宮崎県の認定鳥獣捕獲等事業者第1号である株式会社マツダコーポレーションの松田秀人氏、松田辰也氏を招き、有害鳥獣捕獲勉強会を開催しました。

勉強会では、罠設置の実演も交えながら罠設置時の工夫、シカや猪の思考、視覚や嗅覚、行動範囲、経験談等、貴重なお話をいただき、深い知識を得ることができ、さらに地域への貢献に役立てていきたいという思いが高まりました。



現地において実演指導状況

## 地域民団連携協議会

【宮崎森林管理署都城支署】平成30年3月9日に、地域林業の活性化及び発展のため、管内の2農林振興局・5市町・2森林組合・森林整備推進協定者の(株)総合農林及び支署職員・森林官等による市町村森林整備計画等の円滑な策定や民団連携した森林整備の一層の促進に向けた調整を図ることを目的に、北諸県・西諸県地域民団連携協議会を開催しました。

この協議会は、平成23年度に設置し、年一回の現地検討会、意見交換会を行っています。今年度は、会員約40名参加の下、午前中、葦野国有林内の保育間伐「活用型」事業実行箇所において、森林作業道等の現地検討会を行いました。

午後は、支署会議室において現地視察に関する意見交換、および民・団における林業普及への取り組みについて情報交換を行いました。九州森林管理局技術普及課林企画官からは、熊本南部森林管理署管内に設定されている「次世代造林プロジェクト」の紹介、西諸県農林振興局の高藤副主幹からは、西諸県地区における素

材生産の現況と循環型林業を推進するための対策、(株)総合農林の佐藤代表取締役からは屋根型作業道によるメンテナンスコストの低減、都城森林組合の上原利用課長からは自社生産のコンテナ苗や一貫作業システムによる再造林推進の取り組みについて、小林市農業振興課の前原主事からは市有林での試験・取り組みやイベント等による木育推進の活動や小林市役所新庁舎の紹介等情報提供がありました。

今後とも、地域の森林・林業の発展のため、今会議等を通じて民国の連携と情報提供に努めていきます。



作業道の現地検討会の様子

# 木うそ

【大分西部森林管理署】3月19日に、木の文化を支える森づく



締結式後の記念撮影

りの一環として、平成16年に太宰府市木うそ保存会、太宰府市市商工会と締結した「木の文化を支える森における森林整備・保全活動に関する協定」を更新して太宰府市役所で締結式を行いました。

当日は、青柳健夫保存会会長 楠田大蔵市長、佐伯隆幸商工会長と当署署長が出席して新たな協定書を取り交わしました。



木うそ

「木うそ」とは、太宰府天満宮で行われるうそ替え神事に参加者が持ち寄る伝統的な民芸品で、太宰府市民遺産の第一号として指定されています。

原材料にはホオノキやコシアブラが使われますが、天満宮近隣の山からの調達が困難となったことから、当署管内九重町の国有林に「木うその森」として設定し、保存会がコシアブラの稚樹の刈り出しや除伐作業等に組み込んでいきます。

今回の協定の更新により、署としても引き続き保存会の森林づくりと日本の木の文化を支援していきます。

## 鳥栖治山事業所



鳥栖治山事業所の看板設置

平成29年7月九州北部豪雨により、多数の山腹崩壊と流木等が発生し、福岡県朝倉市などで甚大な被害が発生しました。

九州森林管理局では、福岡県知事から災害関連緊急事業を含め国による早期の復旧整備を求められたことを踏まえ、朝倉市(旧朝倉町及び旧杷木町)の民有林において、「直轄治山災害関連緊急事業」に着手するとともに、二次災害防止に向け、大型土のうの設置や流木・堆積土砂撤去等の心急対策工を実施しました。

また、平成30年度からは、



山腹崩壊の状況

「朝倉地区民有林直轄治山事業」に本格的に着手し、溪間工153箇所、山腹工33箇所など、治山事業による復旧整備を総合的に進めるとともに、工事の実行、地元及び関係機関との調整など、事業の円滑な実施を図るため、佐賀県鳥栖市に「鳥栖治山事業所」を開所しました。

引き続き、福岡県、朝倉市など関係機関と連携し、被災地の復旧・復興に向けて取り組んで参ります。

(担当) 治山課



朝倉地区民有林直轄治山対策室のメンバー

# 菊池渓谷安全祈願祭

【熊本森林管理署】3月23日、熊本地震で被災し、閉鎖が続いていた、くまもと自然休養林の菊池渓谷（熊本県菊池市）において、24日の一般開放に先立ち関係者約80人が参加して、安全祈願祭が開かれました。

祈願祭は、菊池渓谷を美しくする保護管理協議会が主催し開かれたもので、冒頭、熊本地震で亡くなった被災者へ黙祷を行った後、神職による神事及び関係機関による玉串奉奠が行われ、今後の安全が祈願されました。

安全祈願の後、主催者を代表し協議会会長の江頭実菊池市長が「菊池渓谷の再開が決まり、



原田局長、みどりの女神によるテープカット

地震から立ち直る勇気が生まれた、よみがえった菊池渓谷を次の世代へ引き継いでいきたい」と挨拶。次に、来賓挨拶として、当局原田隆行局長、熊本県議会議員前川收氏、菊池市議會議員森清隆氏が、菊池渓谷再開への祝辞を述べました。

続いて行われたテープカットでは、関係機関の代表者に加え、2018ミス日本みどりの女神竹川智世さんや保育園児代表も参加し、開谷に華を添えました。式典の最後には、音楽協会員

都会の中の憩いの森  
**多様な植物**  
 監物台樹木園の  
 樹木園の中央の東側に「クスノハカエデ」と名札のある常緑のカエデがあります。

日本で唯一の常緑樹カエデで、私が調べた限りでは、世界には常緑のカエデは2種類しかなく非常に珍しいカエデです。

カエデは落葉樹が常識となっていますがこの名前を見たときに、植物の世界には特別な個性を持った樹木が多くあるように感じました。例えば、落葉樹の仲間のガマズミに常緑のハクサンボク、常緑樹の代表マツ類に落葉樹の落葉松（カラマツ）があります

クスノハカエデの葉は対生、

によるコーラスや保育園児による合唱も行われ、終始和やかな雰囲気の中で祈願祭は閉式、その後復興祈念植樹が行われ、関係機関の代表者とみどりの女神保育園児により桜の木3本が植樹されました。

126  
**クスノハカエデ**  
 (カエデ科)

葉柄がトウカエデと同じく葉の割には細く長く、葉裏は白っぽくなっています。私は種子（翼果）を見たことがありませんが調べてみるとイタヤカエデと同じ位の翼果だと解説がありました。

自生地は琉球（奄美・沖永良部島・与論島）以南各島（石灰岩質母材）に分布となっています。私は奄美大島に2年余り勤務し、植生調査で西表島、石垣島、沖縄へ4〜5回行きましたが観察したことはありません。雌雄同株となっていますので種子があれば気づいたはずですが残念ながら観察していません。

から観察していません。



みどりの女神を囲む園児たち



名前の由来は、クスノキに似ているカエデの仲間であることからです。

みどりの散歩路

熊本地震から2年が経ち、くまもと自然休養林の菊池渓谷が開園した、復旧に携わった私達として嬉しい限りである▼先月3カ所の阿蘇登山道も全道開通となった、やはり阿蘇は野焼き後の新芽が芽吹く緑まぶしい姿がよく似合う、みなさんもこの時期、足を運んでみてはどうか▼緑の山に見える茶色の山肌から震災の爪跡はまだまだ深い、復旧に携わる方々のおかげで震災復旧は着々と進んでいるが、まだまだ道半ばと感じる▼被災された方々の期待を背に復興に向け工事関係の方々どうか無事故で引き続き復旧をよろしくお願ひします▼初夏に向け各地で山開きのニュース、登山ブームの影響かファッシュショナルウェアを着こなし「イザツ、山へ」、しかしここで今一度、ケガや遭難しては大変です、気象情報の収集やルートの確認、登山届けなど、やるべき準備はたくさんある、思い出に残る楽しい登山であってほしい▼ここ6年の間九州では異常な天災に見舞われ甚大な災害が発生している、今年こそ平穏無事であってほしいと願うばかりである。(広)